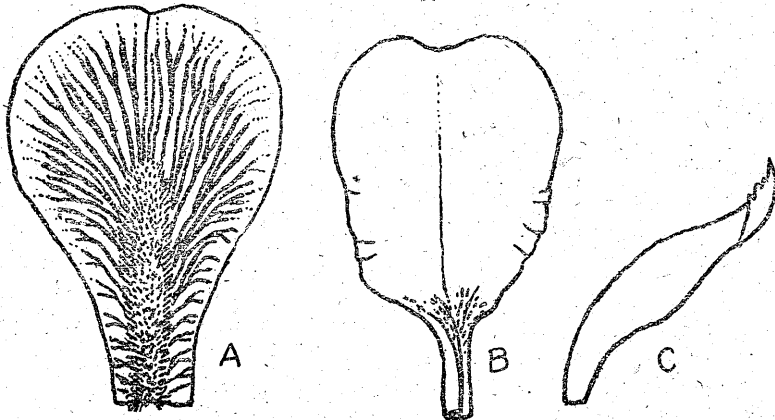


に加州大學の化石學者 R.W. Chaney 氏と桑港の Chronicle の科學主筆 M. Silverman 氏とはこの生きた化石を採集するために空路重慶へ飛んだ。そして船で揚子江を下つて四川省の東部にある萬縣に上陸、まだ一人も西歐人の入つたことのないという石だたみの道を南方へ 100 哩ばかり辿つて自生地 of Tiger valley (恐らく虎溪というのだらう) に 100 本以上の本種が生えているのを見出した。その場所は冬も氣候が溫和で海拔 4000 呎、附近の植生はクリ、ナラ、カンバが主でカツラの大木もあつたというのは興味がある。そうした樹林の中の溪流沿ひの濕氣たところに生えているが、こゝから 35 哩の北方には高さ 100 呎徑 11 呎の大木があつたそうだが、dawn red wood といつてゐる位にセコイアメスギと似たところがあるらしい。

—昭和 23 年 8 月 31 日追記—

### ○日本に栽培される *Pogoniris* に関するノート (津山尙)

毎年庭内の花菖蒲が咲く毎に W.R. Dykes 氏の *Iris* 屬の上に打立てた偉業が偲ばれるのであるが、この數年來小生の注意を惹いてゐる其屬の一品があり、これに對してキツネアヤメの名を假に下してゐた。このものは元來オーストリア、トルコ、南露方面に



A. 外花蓋片, B. 内花蓋片, C. 柱頭の分枝の側面觀

廣く分布する *Iris variegata* L. であつて *Pogoniris* 節に入るべきものである。葉はハナショウブより厚く滑かで、高さ 30-50 cm に達し、外花蓋片は垂下しその中心部は淡ライラック紫色で周邊部は漸次淡黃色になり、これらの上に褐紫色の網紋があり、これも又周邊部は漸次純紫色に變る。その中肋の中央以下には *Pogoniris* 節獨特の黃色の鬚毛を有する。内花蓋片は直立して三者相集り、倒卵狀橢圓形、淡黃色で、外片より稍々大形であり、爪部は溝狀をなし、その部にも亦淡紫褐色の點狀網紋を有する。柱頭分

枝は淡黄色である。このものは Dykes 其他の人によれば所謂 German Iris 群 (*I. squalens*, *I. sambucina*, *I. lurida*, *I. flavescens* 等) の原種として, *I. pallida*, *I. aphylla* 等と共に自然或は人工交配の親となつてゐるものであるが, どう言ふものか日本では交配種の方が有名で元の本種は忘れられてゐて, 園藝の書物等にも挙げられてゐない。小生の調べたものは佐竹義輔博士及び日本女子大の山崎みち教授の邸に於て栽培されてゐるものであるが, これらは共に *Iris* 屬園藝の本場たる英國から明治中期以後に直接輸入されたものである。勿論小生の見たものは原種其物ではなく, 一度交配されたものが再び原種に近いものを分離したものかも知れないし, 又 *I. variegata* そのものの種々の園藝品種の一とも考へられるが, とにかく原種に酷似したものである。

日本に最も早く輸入された歐洲系 *Iris* は同じく *Pogoniris* 節に屬する *I. florentina* で花戸では往々, 同じく白色の花を開くシロバナイチハツと間違はれてゐる。これが慶應 3 年バリー萬國博覽會に參列した田中芳男先生の持參歸國された土産であることは周知の事實である。これは同學の醫者にして本草學者であつた阿部櫟齋氏の邸宅でも栽培され「阿部イリス」と稱せられてゐたことは同氏の孫一三氏の言によつて明かとなつた。このものの根莖を粉末にしたものは矯臭藥, 健胃藥となり, 齒磨粉に加へられることにより有名であるが, 櫟齋氏も「寄應丸」を調合して發賣してゐたと言ふから, バリー土産は早速この丸藥にも應用されたことであらう。明治になつて櫟齋氏が北海道開拓使の役人になつた時も留守の妻女に對してこの植物の培養上の注意を細々と書き送つてゐるが, 當時は貴重品として餘程大切にされたものであらう。

### ○最近の植物分類學の動き (原 寛)

戦時中の外國文獻の中で日本植物に直接關係のある研究やモノグラフに就ては昨年から本誌上で少しづつ紹介して來た。併しそれ以外にそうしてそれ以上に専門家が關心を持つのは, 分類學の今後の行き方を示しその理論を扱つた論文が多い事で, 次に年代順にその例を拾つて見よう。

Clausen, Keck & Hiesey 1940 & 45 Experimental Studies on the nature of the species. I, II. Carnegie Inst. Wash. Publ. no. 520, 452 p.; no. 564, 174 p.

Dobzhansky 1941 Genetics and the origin of species. ed. 2, 446 p.

Gilmour & Turrill 1941 The aim and scope of taxonomy. Chron. Bot. 6: 217.

Clausen 1941 On the use of the terms "subspecies" and "variety." Rhodora 43: 157-167.

Fernald 1942 Some historical aspects of plant taxonomy. l.c. 44: 21-43.

Fosberg 1942 Subspecies and variety. l.c. 44: 153-157.

Weatherby 1942 Subspecies. l.c. 157-167.